

4章 総合問題4

問題

【1】

A.

全訳

多くの人々が持つ、有名人に会いたいという情熱を、私はずっと以前から不思議に思ってきた。有名人と知り合いただと友人に語るができることで獲得する名声などは、自分自身がつまらない人間だということを証明するだけなのである。有名人は、偶然出会った人をあしらう技法を磨いている。彼らは世間に対して仮面、それもしばしば印象的な仮面を見せるが、真の自分自身を隠すよう注意を払っている。彼らは自分が期待されている役割を演じ、練習することによって、それをとてもうまく演じるようになるのだが、この人前での演技がその人の内面と一致していると考えるなら、まぬけなことである。

B.

全訳

かつて教育において——私はその時のことをようやく思い出すことができるのだが——科学がその生命をかけて、勇敢に、献身的に戦った時期があった。①それは、ホメーロスをけつにたたき込まれていればどんな愚か者であっても、聡明で探究心旺盛な自然哲学者よりも、よりよい教育を受けていると思われる時代であった。しかし、現在の教育の世界は、ぼんやりとした形で満ちている。宗教的な教訓や文学へ頭を下げて従う一方で、尊敬や実現されそうもない明るい未来や権力の場である実験室（=科学）にも注意を払う。芸術とは、取るに足りない間柄になりつつある。②なぜなら芸術は、病気を治すことも、生産を増加させることも、守備を確実なものにすることもできないからである。

【2】

ポイント

論説文の長文総合問題。読みやすいテーマで標準的なレベルの単語、英文が使われている。下線部和訳、内容説明問題が中心で、下線部和訳問題では文法的に難解な箇所はないものの、直訳ではごちない日本語になるため訳にひと工夫が必要。

解答

(1) 「全訳」の下線部①、②参照。

(2) ① b ② a

(3) ③ c ④ b

(4) 人類が長い歴史を生き抜いてきた単一の種であることに気づけば、対立や相違を解決するのに役立つから。(48字)

別解 私たちが人類という同一の種に属することがわかり、紛争や戦争の原因となる問題や相違を解消できるから。(48字)

- (1) ① Many questions remain to be answered.

S₁ V₁ C

and

not all the answers <collected to date> will stand the test of time.

S₂ ↑ V₂ O

前半の節は 'remain to be + 過去分詞' で、「…されずに残されている；まだ…されずにいる」の意味。

後半の節は not all ~ で部分否定を表している。「すべての答えが…とは限らない」という意味。collected to date は名詞 the answers を後ろから修飾している過去分詞句。to date は「現在のところ；今までのところ」の意。stand ~ は「～に耐える」という意味の他動詞である。test はここでは「試す手段；試練」という意味で、stand the test of time は「時の試練に耐える」、つまり「長く歴史に残る」という意味を表す。

- ② This process mirrors [what happened elsewhere in the world] ,

S V O

with our species establishing its rule over the Earth within ~ in ….

付帯状況の with

mirror ~ は「(鏡のように) ~を映す；～にそっくりである」という意味の他動詞。目的語は先行詞を含む関係代名詞 what 節である。with 以下は with のついた独立分詞構文で、分詞構文の主語が our species。付帯状況を表す。rule over ~ は「～の支配」の意。over 以下は長い副詞句になっているので、整理して訳すこと。in evolutionary terms = in terms of evolution で、「進化の観点から」という意味。

- (2) ④ result は「結果；結末」などの意味。直前で Whatever the case (どんな場合でも)

と言っているのは、第2段落で、ホモサピエンスの登場とともにそれまでいた他の種の人類が消滅してしまった理由を考察しているのを受けている。その理由は明らかになってはいないが、結果は明らかである、という文脈。本文第2段落全体の内容を参考にすると、これは **b** 「ホモサピエンス以外のどんな種も生存競争に勝てなかった。」という結末が明確であるということである。**b** の文中の but ~ は「～以外は」という意味の前置詞。その他の選択肢の意味は、**a** 「ホモサピエンスは他の種の人類と交じって現生人類になった。」、**c** 「環境がとてもしんどく、ホモサピエンスはそれにうまく順応することができなかった。」、**d** 「私たちはホモサピエンスを含んだ人類の種の子孫である。」で、いずれも本文の内容と一致しない。

- ⑤ 下線部を含む部分は、「それもまた複雑な物語である」の意。第3段落では、アジア大陸から日本へやってきたいくつかの集団の人間が交雑していった歴史が述べられているので、that はその第3段落の内容を受けている。よって、**a** 「どのように日本でいろいろな集団が交じり合ったか」を選ぶ。**b** は「人類が日本でどのように氷河期を生き抜いたか」の意。ℓ. 26 に日本で氷河期を生き抜いた人間がいることは述べられているが、どのように生き抜いたかについては記述がない。**c** は「日本がどのように大陸から分離したか」の意。ℓ. 24 の日本とアジア大陸の地形の姿

化は、それによって大陸から日本へ人間がやって来たことを説明するために述べられたもの。d「古代日本でどのように技術が進歩したか」については本文に記述がない。

- (3) ㉔下線部の that 以下は「ホモサピエンスがさまざまな種類の人類と交配した」という意味なので、「…ということを証明するような、強い遺伝学的証拠はこれまでなかった」の部分を組み立てる。「これまでなかった」とあるから、現在までのつながりを表す現在完了形と考え、動詞は has appeared とする。「…はなかった」という否定の文なので、主語に no をつけることで否定の意味を表す。よって、主語 strong genetic evidence (強い遺伝学的証拠) に no をつける。prove that … で「…ということを証明する」という意味だから、that の前に to prove を置く。

→ No strong genetic evidence has appeared to prove (that …)

⑤ ⑦ ③ ② ④ ① ⑧ ⑥

- ㉕下線部カッコの前の「共通の目的とアイデンティティ」を主語とする。動詞部分は may be essential とつながり、essential は形容詞なので、これに修飾されるべき名詞を探すと elements (要素) があるのでこれ続ける。「将来に向けてのそんなにも長い旅の (ための要素)」は、「～に向けての」を for ~ で表し、for that long journey into the future とする。

→ may be essential elements for that long journey into the future

⑤ ① ② ③ ⑥ ④ ⑦

- (4) 先史時代を学ぶことの重要性は第4段落に述べられている。なかでも、第1文の When we consider our prehistory as a single human species (先史時代に人類が単一の種であったと考えれば) で始まる文が、参考になるだろう。続いて、our present difficulties and disagreements, …, can appear to fade away (今日の私たちの問題や相違は解消できるだろう) と、先史時代を学ぶことによってもたらされる効果について述べられている。この効果は第3文でも Prehistory therefore may help in resolving some of our conflicts and differences (したがって先史時代は対立や相違を解決するのに役立つだろう) と繰り返されている。すべてを訳して盛り込んでとても50字では間に合わないので、重要となる「人類が単一の種であることを知る」→「対立や相違の解決に役立つ」という2点を中心にまとめる。字数制限にまだ余裕がある場合にはより具体的に、「人類が長い歴史を生き抜いてきた」ことなどを補足説明として含めてまとめたい。いずれにしても最低40字以上、できれば45字以上にまとめること。

全訳

アジアにおける現生人類の進化とは、複雑で簡単には語れない物語である。㉔多くの疑問がまだ答えられておらず、これまでに集積されたすべての答えが時の試練に耐えられるとも限らないだろう。しかし、確かなことが1つある。それは、人類の進化の歴史に関する多くの問題を解くには、1種類の説明だけでは十分ではないということだ。真実に到達するためには、科学的な分析を歴史的な研究と結び付けなければならない。完璧な真実がわかることは決してないかもしれないが、この疑問に取り組んだすべての科学者や学者によって、いく

つかの事実が真実だと認められているようだ。現生人類は 50,000 年前から 60,000 年前の間にアジアに現れた。彼らはすぐにそれまでのすべての種類の人類に取って代わった。この説は圧倒的多数の研究者によって事実として受け入れられてきた。40,000 年前から 30,000 年前の間に、ホモサピエンスは日本に現れた。⑤この過程は、世界の他の場所で起きたこととよく似ており、進化の観点からは比較的短い間に人類は地球上での支配を確立した。

それまで存在していた他の種類の人類が歴史から消滅したことは、依然として謎のままである。ホモサピエンスが昔のさまざまな種類の人類と交配したことを証明するような、強い遺伝学的証拠はこれまでなかった。私たちは、私たち自身の種類の人類 (= ホモサピエンス) の子孫に他ならないのだ。それでは、ホモサピエンスは 50,000 年前の自然環境を生き抜くのに適していただけだったのだろうか、あるいはホモサピエンスは昔のさまざまな種類の人類をすべて殺してしまったのだろうか？ 両方の仮説を支持する論拠を集めることが可能である。それとも、これらの昔の人類に、誰にもまだ想像できないようなことが起こったのだろうか？ いずれの場合にせよ、その結末は明らかである。この時代に起こった最後の大水河期が複雑な要因を付け加えているが、それは、ホモサピエンスであろうがなかろうがほとんどの人類の消滅を引き起こしたであろうから、つまりはホモサピエンスがそのような危機に対処する力を以前の種類の人類より身に付けていたことを示唆している。

現在日本として知られている陸地は、いろいろな時期にアジア大陸とつながったり離れたりしてきた。そして人類のさまざまな集団が日本にやってきた。約 15,000 年から 10,000 年前の最後の大水河期には、日本に人類が生き延びており、アジア大陸からの移住者が寄せ集めの集団にさらに別の集団となって加わり、一緒になった。しかしすべてが現生人類であり、すべてがホモサピエンスであった。それもまた複雑で、必ずしも完全に理解できる話ではないが、現代の日本人の大多数はこれらの人々の子孫なのである。

今日の私たちの問題や不一致は、すべてが紛争や戦争という結果になることがあまりにも多い。しかし、私たちが先史時代に単一の人類の種であったと考えれば、言語や習慣にはたくさん種類があり、私たちの外見も異なっているにもかかわらず、私たちが本当に 1 つの民族であるという知識に置き換えられてそのような問題や相違も解消できると思われる。このように、先史時代の研究のおかげで、私たちは人間であるとはどういうことかについて考えるための有用な観点を持ち、人類を全体として長い目で見るができるのである。したがって先史時代は、私たちにホモサピエンス種として過去 40,000 年以上を生き抜いてきたことを思い出させることによって、対立や相違のいくつかを解決するのに役立つだろう。もしこれからもう 40,000 年生き抜こうとするなら、共通の目的とアイデンティティを持つことが、将来に向けてのそんなにも長い旅の重要な要素になるかもしれない。

注

ℓ. 3 ◇ that no one kind of explanation is adequate to solve the many issues involved in ~
「…するのに十分である」

コロンの前の one thing の説明をしている部分。接続詞 that が文頭に置かれ、全体が名詞節の形になっている。否定語 no に注意する。

ℓ. 8 ◇ take the place of ~ 「～に取って代わる」

ℓ. 16 ◇ other than ~ 「～以外の」ここは、「～以外のどんな人類の子孫でもない」が直訳。

Ex. The plane was a little late, but *other than that* the journey was fine.

(飛行機は多少遅れたが、それを除けば旅行は快適だった。)

ℓ. 19 ◇ in favor of ~ 「～に賛成の；～に味方して」

◇ Or, did something happen to these earlier humans {that no one has yet imagined}? ↑

関係代名詞節と先行詞が離れていることに注意。

ℓ. 22 ◇ be equipped to ... 「…する知識〔実力〕を備えている」

ℓ. 25 ◇ make one's way 「(苦勞して) 進む」

ℓ. 30 ◇ not necessarily ... 「必ずしも…ではない」部分否定の表現。

ℓ. 31 ◇ {When we ... species},

副詞節

our present difficulties and disagreements, {which all ... war},

S

関係代名詞節

can appear to fade away,

V

replaced by the knowledge {that we ... people <despite ~>}.

分詞構文

同格

ℓ. 38 ◇ ... and if it is to survive for another 40,000 years,

it = Homo sapiens である。be to ... はここでは‘意思’を表す。「…しようとするなら」の意で、この意味の be to ... は条件節に用いるのが普通。

【3】

A.

解答

- (1) This road will take you to the station. [If you take this road, you will get to the station.]
- (2) The older you get [become], the faster time goes [passes].
- (3) I was careful not to say anything to make him angry.
- (4) His death was not made public for a while.
- (5) His wife accused him of not loving her as [so] much as (he did) before.

解説

- (1) 日本語をそのまま英語にしたのが If you take this road, you will get to the station. で、もちろんこれでも正解。ただ、より簡潔な表現が、「この道が(あなたを)駅に連れていってくれます」と考え、this road を主語にした This road will take you to the station. という英文。
- (2) 「～すればするほど…する」という日本語を見てすぐに思い付くのは、the 比較級 ~, the 比較級 ... の構文で、ここでもそれを用いればよい。
全体の主語は「人々一般」を表す you または we とする。
「年をとる」は get [become] older だから、「年をとればとるほど」は the older you

[we] get [become] となる。

「時間が経つのが速い」は time goes [passes] fast で表せるから、「時間が経つのがより速くなる」は the faster time goes [passes] とすればよい。

- (3) 「私は…しないように気を付けた」は I was careful (so as) not to … で表せる。

「彼を怒らせるようなことを言う」は say something to make him angry とするか、「彼を怒らせるかもしれないこと」の部分に関係代名詞を用いて、say something that might make him angry とする。something は not to say の後なので anything になる。

したがって、I was careful not to say anything to make him angry. となる。

- (4) 「～を公表する」は、public という語が与えられているので、make ~ public という表現を思い付いてほしい。ここでは「彼の死」を主語とした受動態にして、his death was not made public となる。

○ 「しばらくの間」 for a while, for some time

- (5) 「…と、～を責めた」という日本語だが、accused という語が与えられていることから、accuse A of B (BのことでAを責める) という表現を用いることになる。したがって、「…愛してくれないということで彼を責めた」と読み換えて、accused him of not loving … となる。

「以前ほど…ない」は、as, before が与えられているので、not … as [so] much as before とすればよい。

B.

解答

- (1) What do you like about this school? [What (part) is good about this school?]
(2) Tell her not to get [go] close to [near] the dog.
(3) I almost [nearly] left my umbrella on [in] the train.
(4) Japanese is often said to be a difficult [complicated] language.
(5) You were so late that I was just about [going] to phone you.

解説

- (1) 「about を用いる」という指示だけなので、「この学校について何が好きですか」と考えて、What do you like about this school? とするか、「この学校に関してどんなところがいいのですか」と考えて、What (part) is good about this school? とすることもできる。

- (2) 「Aに…するように言う」は tell A to …, 「Aに…しないように言う」は tell A not to … となる。

「～に近づく」は get [go] close to ~, または get [go] near ~ でよい。

- (3) 「(もう少しで) …するところだった」は、簡単に almost [nearly] …で表すことができる。したがって、「傘を忘れるところだった」は I almost [nearly] left my umbrella となる。

○ 「電車に」 in [on] the train

- (4) 「～は…であると言われる」には、it is said (that) ~ …, ~ is said to … の2つの

表し方があるが、ここでは Japanese が said の前にくるという指示があるので、後者の形を用いる。

○「難しい言語」 a difficult [complicated] language

- (5) 「あまり～ので…だった」という日本文から、so ~ that … 構文を用いる可能性を考える。「あなたの来るのがあまり遅いので」の訳し方で悩むかもしれないが、英語ではただ you were so late とすればよい。
「今…するところだった」は、just が与えられているので、be just about to …、または、be just going to … を用いる。
「電話をする」は与えられた phone を動詞として使って、phone you とすればよい。

【4】

解答・解説

- (1) which I thought it was a lie → which I thought was a lie (which → but も可。)
「ジョージは携帯電話を失くしたと言ったが、それは嘘だと思った。」
- (2) Whatever → However
「あなたがどんなにお腹が空いていようと、がつつ食べてはいけません。時間をかけて食べなさい。」
whatever には複合関係形容詞の用法があるが、その場合でも名詞を修飾する。hungry という形容詞を修飾するには複合関係副詞 However にする。
- (3) which → as
「知性を拡大するような本を学生たちには読ませなさい。」
先行詞に such があるため関係詞は as (疑似関係代名詞) を用いる。
- (4) whose the roof → whose roof [the roof of which]
「あそこに屋根が見える家は、先生の家です。」
You can see its roof over there. から。
- (5) whom を削除
「先日手紙で書いた教授は、去年フィールズ賞を取った。」
The professor が主語で、won が動詞となることに注意。

【5】

解答

- (1) Millionaire as [though]
(2) Unless
(3) (so) that, miss
(4) his [him] leaving the office at once
(5) It seems, my daughter (has) lost her way
(6) the criminal, be arrested quickly
(7) read this story without being moved to tears
(8) my stay in London

- (9) will take you
(10) pride, allow her to ask others for help

解説

- (1) 「彼女の父は百万長者だったが、決して金儲けの機会を逃さなかった。」
○ X as [though] S V, ~ = Though S V X, ~
- (2) 「自身のひどい行いについて謝罪しない限り、二度と口をききません。」
○ 命令文, or S V. 「…しなさい。さもないと S V。」
○ Unless S V, 「SがVしない限り」
- (3) 「その急行列車に乗り遅れないように彼らは駅まで走った。」
○ so that S may [can ; will] … 「Sが…するために」
- (4) 「ジョーンズさんは、彼が直ちにオフィスを出るように主張した。」
○ insist that S V = insist on + 名詞なので, leave を動名詞にする。
- (5) 「私の娘は森の中で迷ってしまったように思われる。」
○ It seems that S V. = S seems to ….
- (6) 「我々の大半は、その犯人がすぐに逮捕されることを期待している。」
○ expect ~ to … 「～が…するのを期待する」
- (7) 「この話を読むと必ず感動して涙が出る。」
○ never [cannot] ~ without …ing 「～すると必ず…」
- (8) 「ロンドン滞在中、オリンピックスタジアムに行った。」
○ during は名詞を取る。…ing は取れないことに注意。
- (9) 「この通りを行けば、ルーブル美術館に着きますよ。」
○ take A to B 「AをBへと連れて行く」
- (10) 「彼女はプライドが高かったので、他人に助けを求めることができなかった。」